

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<5>

阪神・淡路大地震の概要

【地震の概要】

阪神・淡路大震災は地震名を兵庫県南部地震といい、内陸都市直下型の活断層地震で、1995（平成7）年1月17日午前5時46分に発生しました。震源地は淡路島北部で、震源の深さは約16^{キロメートル}、最大震度7の巨大地震でした。

【被害の概要】

阪神・淡路大震災による被害は、死者約6400人、建物全壊約10万棟にのぼる甚大なも

ので、その特徴は、次の通りでした。

- ①大都市を直撃した大規模地震のため、道路・鉄道等の交通手段、電気・水道・ガスなどの甚大な被害が広範囲にわたった。
- ②古い木造住宅の密集した地域において、地震による大規模な倒壊・火災が発生し、特に、神戸市長田区・兵庫区などでは大火災が多発した。
- ③神戸・阪神地域という人口密集地で発生したため、多数の住

民が避難所生活を余儀なくされた。

【阪神・淡路大震災の特性】

阪神・淡路大震災では、住民のみならず「自治体、警察、消防等も被災者であった」という点も、大きな特性でした。例えば、私が救助活動に当たった神戸市中央



阪神大震災発生当日の神戸市。火災の黒煙があちこちから立ちのぼった

区では、地震発生当日、出勤できた職員は20%以下でした。このため、最も重要な初動の段階（組織の立ち上げ、人命救助など）において、パニック・人手不足などで十分にその機能を発揮できませ

んでした。南海地震においても、同様なことが懸念されています。【次号のテーマ】次号では、阪神・淡路大震災の被災者及び救助活動の状況についてお話しします。

エピソード 阪神・淡路大震災 ①

1995年1月17日未明、私は京都府宇治市の官舎で、かつて経験したことのない激しい揺れにたたき起こされました。あれから11年……。今月号からシリーズで、「今だから話せるエピソード」の一部をご紹介します。

【真昼の怪談 高速道路】

私は、地震発生の翌日、人員約200名、車両約70両を指揮して午前8時に京都・大

久保の駐屯地を出発しました。高速道路は、一部の区間で緊急車両のみ通行が可能であり、少しでも早く目的地（神戸市中央区・王子公園）に着きたかったので、行ける所まで高速道路で行くことにしました。

高速道路に入ってから驚きました。もちろん、途中で橋が落ちていることも不安でしたが、それより、昼間なのに対向車も追越し車両も全くありません。ゴースト・タウンのような高速道路―背筋が寒くなりました。